

・・・「住民こそ主人公」「元気なまち」めざし・・・

「町の大事なこと」はみんな決めてよう

「道の駅」
意向調査

私たちが取り組みます

住民アンケートをはじめます

6月議会で「ふるさと交流村の住民の意向調査を」と改めて提起しましたが、町当局は今度も否定。私たちは「ふるさと交流村」の計画が、このまま進めば、「ハコモノだけが先行」するのではと心配しています。

それは「甲良町にたくさんのお客さんを集めるだけの特産品がない」との声に象徴されます。建物が立派に建設されたが、並べる地元農産物・商品がなく、「市場から仕入れ」している「道の駅」の例がいくつも報告されています。各地の直販所が苦勞されている中、河瀬駅西側の「JA野菜の里」は生産者はじめ関係者のご努力で人気急上昇。

「ハコモノ」を作れば、
後からついてくる？

一方、「ハコモノ」を作れば、それに刺激されて、生産の意欲も盛り上がるにちがいない。このような意見もあります。

いずれにしても、私たちの税金・総額7億4千万円が使われる計画なのです。生産者・町民の大多数が「主人公」にされていないことが最大の問題になっており、用地を買収し、設計予算が議会承認された現在でさえ、準備委員や経営責任者が確定していないと言われる現状なのです。

私たちは、町民のみなさんが意思表示できる機会をつくり、真に「農業振興」と「地域振興」につながる実績を先行する予算、町民のくらしが元気になる予算をウーンと増やせと要求したいと考えています。

私たちの力はまだまだ微力ですが、多くの町民のみなさんが、アンケート活動にご参加いただけますようお願いいたします。

農業委員の 議会推薦決まる

7月1日告示、6日投票で農業委員選挙がはじまります。

6月議会最終日(12日)、議会推薦の農業委員をめぐって全員協議会が開かれ、後の本会議で下記4氏の推薦が決定されました。

論議の概要

議会推薦は「学識経験者」となっており、従来の4字から推薦する慣例を、町議会議員の中から1名推薦するように改善してはどうかと提起されましたが、約半月後に始まる選挙で、従来の枠組みを変更するには論議不足となるため、今回の議会推薦は藤堂議長のリードなどもあり、「選挙人の少ない字の順」との推薦基準で合意に至りました。

西澤議員も発言。17人の定数の内、公選枠が10で少ないこと、学識経験者等を議会が責任をもって推薦する方式へ、今後改善論議が必要。しかし、告示直前の枠組み変更

は混乱をもたらす。推薦の基準はスジを通す必要があり、「選挙に強い字」などの判断を介入させるべきではない、などと提起し、本会議でも討論しました。

甲良町の場合、推薦委員が、農業団体から3人、議会推薦から4人の計7人と公選定数が10人となっています。

議会推薦の農業委員

- * 山田久良さま(呉竹)
- * 窪田 堯さま(在土)
- * 神野幸士さま(法養寺)
- * 宮川徳満さま(長寺)



地域農業の再生と 食の安全を考えるつどい

とき：7月19日(土)1:30 開会
ところ：保健福祉センター1階 研修室
パネリスト：党農民部責任者(報告)

* 要請中 町担当者、愛東マーガレットステーション直売所運営委員、地元農業関係者など

日本共産党は今年3月、自給率向上をめざし「農業再生プラン」を発表。立場のちがいを越えて、明日の農業・甲良町に何が必要か！フロア参加者も大いに語り合しましょう。

甲良民報

2008年6月22日 385号
発行責任：日本共産党甲良町支部
代表：西澤伸明 甲良町在土463
Tel.Fax38-4949